

器金銀衣類食物等銘々思ヒ々、ニ棄ヒ取リ自
分ハ金一圓甲冑ヲ棄ヒ着用刀ヲ帶ヒ押行途中
早川次郎作外一人ニテ松川忠次右衛門外五人
ハ鎗又ハ棒等ニテ疵付ケ内藤清右衛門外八人
ニテ中島吉左衛門外兩人ハ疵負ハセ乱防致シ
荒川端追罷越候處官員出張有之驚キ入甲冑ハ
脱キ捨逃去リ長坂上糸邨追罷越候處九日被召
捕候

獄囚脱監及越獄逃走條例

司法省

及獄シテ逃走スルノ首ヲ以テ論シ

斬罪

藥石重兵衛

持兇器強盜再犯人ヲ傷シ財ヲ得ル

ハ罪等シ餘罪ハ輕シ故ニ除棄ス

強盜律

持兇器強盜人ヲ傷シ財ヲ得ル者

斬罪

倉田利作

外十三人

各贓金九十四圓余

及獄シテ逃走スルノ從ヲ以テ論ス

威カヲ用テ役場
ヲ迎テ立スル反
科ヲ以テ論ス

ルノ罪及ヒ餘罪ハ輕キニ依テ除棄ス

中澤佐吉小松孝兵衛ハ自ラ財物ヲ棄ヒ得スト去フト雖モ財ヲ得ル者ハ賍ヲ分タスト雖モ賍ヲ併セテ首從ヲ分タス罪ヲ科スト不持兇器尚ホ且然リ故ニ別ニ論セ

准流人役場ヲ返逃スルハ及獄ト同ク論シ可然哉ノ旨過日長岡權少判事ヨリ及御質問候未決

司法省

ノ因ハ及獄本律ニ依ル論ナシ已決ノ因ハ別ニ徒流人逃律アリ依テ科断スヘシ及獄ト同シク論ス可キ者ニアラスト然レトモ及逃ノ如キハ其情罪尋常逃走ニ比スレハ大ニ重シ概シテ逃走律ニ依ルハ安着シ難キ所アリ顧フニ明清諸律ノ如キ徒流人ノ及ヲ載セサル者ハ軍已ニ着伍スレハ自カラ去ル軍人ノ法ニ依テ處断シ流ノ配スル者ハ地ニ遠近アリト雖モ均シク其地ニ編藉スルノ三徒人苦役ノ法亦我ト異ナル者アリ故ニ逃回ノ者アリテ及逃ノ者無キナル可

シ我邦ノ如キハ徒流入犯一役場ノ中ニ雜處シ
其役限ノ最久シキハ十四年ニ至ル夫役限久シ
ケレハ因堪ヘサルノ情アリ堪ヘサルノ情ヲ抱
キ共居相謀ルノ便ヲ得ル其勢ト及シ易シ是以
役場ニ及スル者ハ淮流入十其七ニ居ル且現今
役場ノ如キハ各府縣假リニ設ル所ニシテ各々
其方法ヲ異ニシ甚キハ已決未決ノ因ヲシテ一
牢控ノ中ニ混處セシムル者アルニ至ル故ヲ以
テ監獄則ノ撰アリト雖モ漸次施設ス可キ所ニ
シテ目今之ヲ實地ニ用ル十ノ一ニ過ス此間徒

司法省

流入及スル者アリ咎ヲ役場ノ備ハラサルニ歸
シ徒流入逃本律ニ照シテ斷セハ牆塼ノ完固ナ
ラサルヲ責メ強盜ヲ竊盜ト論スルカ如シ夫未
決ノ因ハ本罪笞杖ニ該ルモ及スレハ即チ斬從
タルモ懲役終身ニ下ラス已決ノ因ノ及スルハ
原犯滿流ナルモ仍ホ從新懲役捧鎖ヲ加フルニ
過キス假令ハ已決未決ノ因混居シテ及ヲ謀ル
ニ滿流已決ノ因造意ニシテ笞杖未決ノ因從メ
リ已ニ及逃シテ縛ニ就カ如キ及獄ノ本律ニ依
テ斷セハ論ナシ若夫已決未決ヲ分テ斷セハ造

意滿流ノ已決者ハ死ニ入ラス笞杖未決ノ因ハ懲役終身ニ至ル權衡平ヲ得ル者ニアラサルナリ夫及獄ノ刑重キ所以ノ其衆ヲ糾メカヲ恃三官司ヲ憚ラサルヲ惡ムニ非スヤ故ニ均シク監獄ヲ出テ逃走スルモ脱越ノ如キハ情輕キヲ以テ本罪上ニ加等スルニ過キス已決未決ノ別アリト雖モ徒流人夥黨糾合凶器ヲ持シ公然門ヲ棄テ擁出セハ其衆ヲ恃三官司ヲ憚ラサルノ情未決ノ因ト何ソ異ナラン是又獄ト同ク論セサルヲ得ス且改正律例第二百九十六條ニ云凡脱監

司法省

及ヒ越獄シテ逃走スル者云々罪懲役終身ニ止ム懲役場ヲ逃走シ又監獄ヲ脱越スル者罪亦同是已決未決相交ル者ナリ然則已決ノ因ト雖モ及逃スレハ及獄ト同シク論シ可ナラン乎此段重テ及御問合候也 断刑課同

同之通及獄ヲ論スヘシ 明法寮答

明治六年七月三十日。兵庫縣

塚本忠助供自分儀旧三田縣ニ於テ竊盜ノ科ニ依リ徒罪被申付驅役ニ堪兼逃走致シ竊盜相勸キ候ニ付又同縣へ被召捕御吟味中越獄致シ候上尚又竊盜相勸キ候ニ付明治五年十月捕縛相成御吟味詰之上罪案へ爪印致シ候處合牢之内大和國出生勝次郎発意ニ随ヒ同意之者共申合セ當四月六日夜獄中ノ水罌ヲ以テ扉ヲ打破リ終ニ及獄逃走致候右及獄致シ候囚人之内生國不知助次郎美作國津山ノ常吉大和國奈良ノ萬

司法省

吉播摩國曾根ノ丑松同國木梨村ノ龍玄撰津國芝村ノ四郎三郎相摸國立水村ノ勝藏等申合同夜撰津國鬼原郡横家村碓井安次郎宅戸口ヲ石ヲ以テ打破リ助次郎常吉ハ拔刀携其餘之者ハ木坊ヲ携可押入之處家内之者起出相拒候ニ付助次郎常吉ハ携居ル刀ヲ以テ家主安次郎へ疵為負同人所持致候脇差ヲ萬吉奪取り一同其場逃去候

捕亡律脫監及反獄條

反獄シテ逃走スル者

斬罪

塚本忠助

持兇器強盗人ヲ傷シ財ヲ得ルハ罪等
シキヲ以テ一二随テ科シ竊盜再犯及
ヒ徒場ヲ脱逃シ又越獄スルハ並ニ輕
キニ依テ除棄ス

談犯徒ヲ脱シ又監ヲ脱スト雖モ未タ
前犯處決ヲ經サルニ由リ再逃ヲ以テ
論スヘカラス

伺ヒ面再逃ノ例ニ依リ絞罪云々見

司法省

込ノ誤レルヲ此ニ正ス

再議

改正強盜律

持兇器強盜人ヲ傷シ財ヲ得ル者

斬罪

塚本忠助

贓金七拾五圓余

反獄シテ逃走スルノ從及ヒ竊盜再犯
懲役場ヲ脱逃シ又越獄スルハ並ニ輕
キニ依テ除棄ス

反獄ノ從

役場ヲ脱シ
又越獄ス

懲役人逃

司法省

明治六年七月十四日。大分縣

樽吉供自介儀竊盜致シ旧杵築御藩ニテ御吟味
中相牢彌助并勤兵衛等發意ニテ同意再度破牢
脱走致シ又候私一人立破牢脱走致候

脱監逃走三犯ノ者

捕亡律徒流人逃條

徒流ノ囚人役限未タ満スシテ再ヒ逃走スル
者ヲ以テ擬シ

伺之通

懲役人逃

司法省

絞罪

擲吉

竊盜賍ハ輕キニヨリ論セズ

未決ノ脱監凌
場再逃ヲ以テ論ス

明治六年九月十三日 三瀨縣

捕亡律懲役入逃條例

懲役五年以上、囚人逃走シ外ニ在テ百日以下ノ罪ヲ犯ス者

捧鎖二日

懲役十年

上田吉太郎

滿限、後加役七十日

他縣ノ懲役場ニ在ル妻ヲ竊シテ逃走スト雖モ其妻己ニ限滿ルヲ以テ劫囚律ニ擬スヘカラス及ヒ

司法省

越獄セント竊カニ鋸ヲ買取スト雖モ行ハスシテ止ム共ニ不應為重キニ問シ一ニ從テ加役ス

役場妻ヲ竊ム
其限己ニ滿ルヲ
以テ劫囚ニ依ル

越獄ヲ圖リ
鋸ヲ買フ不
可重トス

明治六年九月廿三日 木更津裁判所

永井太郎吉供自分儀父新平ヲ罵詈スル科ニ依
リ明治六年二月四日准流十年ニ處セラレ以来
懲役場ニ罷在候處五月相准流人佐藤若松ト俱
ニ外役ニ罷出テ沙ヲ運ヒ濱邊ニテ兩人相休候
節同人へ准流年數ノ長ヲ話シ滿限ノ日八年モ
老ヒ働キモ成子ハ活計ノ道モ相立間敷且世間
ニハ諸般ノ樂ミヲ為レ共自分共八日々驅役セ
ラルトト怨言ヲ申述候處同人モ同斷ノトト互
ニ物語ル未隙ヲ伺ヒ俱々逃亡致シ何方ヘカ可

司法省

罷越ト約束ヲ為シ候得共其後何トモ相談無之
候間同廿三日夕方外役ヨリ歸ル途中同人へ如
何可致ト催促致候ニ承知致スト相答ヒ候儘相
別レ候處翌廿四日若松ヨリ御訴申上右企ノ始
末露顯致シ御糾ヲ受申候

捕亡律懲役人逃條例

懲役人逃走ヲ圖リ未タ役場ヲ離レスシテ捕
ニ就ク者

捧鎖二日

永井太郎吉

此等ノ約言ニ
照リ圖リ成ス
トス

棒鎖、器械無之ハ第二百六號ノ御
布告ニ依リ原杖七十ニ處スヘシ

同律同條

懲役人ノ逃走ヲ報シ因テ逃走ヲ致サ、ル
ヲ得ル者ハ本罪ニ一等ヲ減スル處本人一旦
懲役場脱逃ヲ企テ後悔悟自首スト雖モ右ヲ
原謀スル者ニ付本罪減等ヲ聽サズ止夕脱逃
企ル罪ヲ免ス

佐藤若松

同上

司法省

懲役人ノ逃走ヲ報シ去々本罪ニ一等ヲ減ス
ル處止夕佐藤若松ノ出首ヲ傳報スル、三自
ラ其情ヲ探リ報告スル者ニ非ルヲ以テ亦減
等ヲ聽サズ

山口長藏
外二人

逃ヲ原謀ニテ
同生口ル減等
聽サズ

傳報スル
自告ヲ以テ論セズ

明治六年十月七日 奈良縣

浦田一供自分儀牢舎罷在候ヲ心苦ニ存シ及
獄致シ度合牢人ノ内島越與七郎辻要人寺田安
吉へ相談シ當六月十三日囹圄所構内ニテ運動
ノ節守衛ノ役員透ヲ考へ一時ニ沸騰イタシ其
騷キ紛レニ可逃去別牢ノ者へ通達方要人ヨリ
談合ニ付黨類東浦文藏へ相談シ候内段々時刻
モ相過キ事遂ケス一同歸牢致シ其後及獄ノ儀
猶亦申出シ候處要人ヨリ兄能勢近雄王同意ノ
儀申入レ候處却テ異見ヲ受候ニ付此儀ハ止リ
候旨三八トモ申之ニ付其儘相成其後談合不致
候

司法省

一時及獄ヲ造意スト雖モ他囚遂ニ一致セサ
ルニ依テ遂ケサル者

懲役人逃條例

懲役人逃走ヲ圖リ未夕役場ヲ離レスシテ捕
ニ就クト云ヲ以テ論シ

捧鎖二日

浦田一

浦田一及獄ノ造意ニ僅カニ左祖スト雖モ

未決ノ囚及獄
ヲ謀テ成ラズ
懲役人逃走ヲ圖
ニ就ク

忽乎悔悟断念スルヲ以テ

免罪

辻要人

外二人

各本犯ハ罪案ニ據テ別ニ指令スヘシ

浦田牙一ハ元郡馬裁判所伺本年七月

十二日ノ指令ニ未決已決ノ罪囚監ニ

在テ脱越ヲ謀リ未夕逃走セサル者ハ

監獄則第一則ニ依リ棒鎖ニ處ス云々

トアルニ照依ス

司法省

明治六年十一月廿七日 山口縣

捕亡律懲役人逃條例

懲役五年以上ノ因人限内逃走スル者云々外
ニ在テ重子テ百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ役限
ヲ全加スト云ニ依リ棒鎖三日ノ上新ニ懲役
十年ヲ拘役シ外ニ在テ竊盜一圓ノ罪ヲ犯ス
ヲ以テ懲役六十日全加スヘキ處祖母七十以
上家ニ侍養ノ子孫ナキヲ以テ存留養親ノ例
ニ據リ原杖一百ヲ棒鎖三日ニ換工及ヒ逃走
ノ罪ヲ棒鎖二日ニ科シ餘罪ヲ收贖セシム

司法省

棒鎖五日
收贖金十二圓五十錢
森本吉五郎

贓金一圓

所犯改定律前ニアルヲ以テ收贖ハ旧法ヲ用
ト從新拘役十年ノ收贖金十三圓五十錢ノ内
棒鎖三日ニ當ルニ圓五十錢ヲ扣除シ十一圓
ノ處外ニ在テ犯ス罪懲役六十日ノ收贖金一
圓五十錢ヲ加工十二圓五十錢トス

脱走ノ棒鎖
存留ノ棒鎖
合併ニテ全
數ヲ科ス

明治六年十二月廿五日 大坂裁判所

原犯準窃盜ノ罪ヲ犯シ舊藩律ヲ以テ徒二
百五十日ニ処スルノ後ヲ徒場ヲ逃走シ外
ニ在テ又竊盜ノ罪ヲ犯スニ審問ノ時陳述
セサルニ依リ唯窃盜初犯ノ科ヲ以テ杖六
十二処スルノ後ヲ其罪發覺スル者

捕亡律懲役人逃條例

懲役百日以下ノ囚人限内逃走スル者ハ云々
若シ外ニ在テ又百日以下ノ罪ヲ犯セハ前犯
後犯ヲ通算シテ新ニ拘役ストアルニ擬シ已

司法省

ニ打決スル杖六十ヲ除去シ原犯徒二百五十
日ヲ新ニ拘役ス

捧鎖^一日^日 懲役二百五十日 監金五十三円 山口平次

窃盜五十圓以上新律ニ照準スレハ懲
役一年ニ該ルモ原犯輕科タルヲ以テ

本議ノ如シ

罪案中初犯再犯ノ贓金區別掲載セスト
虽モ伺書中原犯ノ贓五十圓以上云々ト
アルヲ以テ再犯ノ贓ハ一回以上則懲役
六十日ト見做シテ科斷ス

再犯ヲ偽リ初
犯ト供スル罪
ヲ通算シテ和
陰ノ法ヲ用ニ
再犯加等ニ依
テス

主守不覺共囚

司法省

罪囚、竹ヲ与ル
金及ツテ論ス

明治六年七月十四日 大分縣

罪囚ノ頼ニ依リ竹ヲ與ルト雖モ逃走セシム
ルノ情ナキヲ以テ

捕亡律主守不覺失囚條

凡主守罪囚ノ逃走スルヲ覺ラサル者ハ答四
十ノ處他人ノ捕得スルヲ以テ一等ヲ減シ答
三十過誤ノ情憫諒スヘキヲ以テ賧ヲ聽ス

賧罪金二圓廿五錢 嘉平

主守不覺失囚

司法省

明治六年八月廿七日 新川縣

善次郎供自分儀明治六年四月廿五日法樂寺村
ニ於テ捕縛ニ相成候新川郡水槁町日置屋久四
郎御取糺中勤番罷在候處午後九時頃久四郎儀
逃去吳候ハ、後日挨拶料可相渡旨申聞候ニ付
貧窮ノ餘リ欲心ヲ生シ為逃去候

該犯捕吏ニ非スト雖モ臨時押解中ノ看守ニ
充リ因ノ財物ヲ送ラムト去ヲ聽許シテ故縱
スルハ宜シク因ト同罪ニ坐スヘキ處因脱逸

司法省

シテ未獲其罪ノ輕重知ルヘカラス然レ共徒
ニ該犯ノ刑ヲ停ムヘカラス因テ

捕亡律主守不覺失囚律ニ比擬シ

懲役四十日 善次郎

逸囚就縛審糺ノ日罪重ケレハ仍ホ
貼斷スヘシ

人ヲ故縱
犯未々捕
覺失囚律

囚ヲ失スル容
隠ノ例ヲ用ヒス

明治六年十月十八日 磐前縣

捕亡律主守不覺失囚條

主守罪因ノ逃走スルヲ覺ラサル者ハ懲役四
十日ノ處因自首スルヲ以テ一等ヲ減ス

贖罪金二圓廿五錢 武田彌太郎

清律相為容隱條標註ニ云私竊ニ因テ放テ
逃走セシムル者ハ有服ノ親屬ト雖モ亦常
人ト同シ誼犯故造ニアラスト雖モ此義ヲ
參酌シテ相為容隱ノ例ニ用ヒス

司法省

明治六年十月廿九日 茨城裁判所

保管人因ヲ故縦スル者

捕亡律主守不覺失囚條

主守罪囚ノ逃走スルヲ覺ラサル者ハ懲役四
十日故縦スル者ハ各囚ト同罪同條例保管人
囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ主守不覺失囚律ニ
二等ヲ減スト云權衡ニ比準シ囚人ノ本罪懲
役一年ヨリ二等ヲ減シ懲役九十日未夕斷決
セサルノ間捕得スルヲ以テ又一等ヲ減シ通
シテ三等ヲ減シ懲役八十日仁左衛門ノ頼ミ

司法省

ニ出テ事情憫諒スヘキヲ以テ贖ヲ聽ス

贖罪金六圓

谷口彌左衛門

故
縦
ヲ
准
ス

罪四ノ奴樓
ハクハ左ニ

後見人ヲ以テ
卑幼ノ男夫
トス

明治六年九月廿七日 滋賀縣

管守スル處ノ罪囚ヲ妓樓ニ誘引シテ縱遊
セシムルモノ

雜犯律不應為條

不應為ノ重キニ科シ

懲役七十日

池田繁次郎

戸主宗吉幼少ニシテ仍ホ家業ノ番人ヲ勤
ムルヲ以テ池田繁次郎ヲ後見トシ同居シ
テ専ラ事務ヲ扱ハシムルニ依

司法省

名例律共犯罪分首從條

婦人ノ尊長ハ首タリト雖モ仍ホ卑幼ノ男夫
ヲ坐スルノ例ニ依

無罪

青木

唯タ罪囚納涼ニ夜行センコトヲ請フニ

一己ニ承諾セシハ責ム可キニ似タリ

ト雖モ主守既ニ檻ヲ出シ自宅内ニ居

クノ囚ニシテ且主守他出ノ際曾テ代

守ヲ委托スル等ノコトナキヲ以テ別ニ

論セス

明治六年八月廿四日。相川縣

罪囚徒場ヲ潛出シテ外ニ在テ竊盜ヲ為シ
テ獲歸ヤシヲ遂ニ覺ラサル主守者

主守不覺失囚條

主守罪囚ノ逃走スルヲ覺ラスト云ヲ以テ論
シ其囚ヲ失ハサルニ由リ量テ一等ヲ減シ懲
役三十日例ニ依

贖罪金二圓廿五錢 淺野利三次

未タ斷決セサルノ間他人捕得シ若ク
ハ囚自首スレハ一等ヲ減スルノ權衡

司法省

ヲ量テ減ス

不覺失囚條
量減從テ

明治六年十一月廿日 滋賀縣

他出留ノ者ヲ私擅ニ他出ヲ許可スルニ依

リ

雜犯律

私他出ヲ
許ス律云

違式ノ輕キニ問ヒ懲役十日等外吏ニ準シ私
罪贖例圖ニ照シ

贖罪金一円五十錢

戸長 川端藤七

同僚ノ言ニ從ヒ茂登喚問ノ期ニ違ハサル
ヲ信シ一時臨機ノ計畫ヨリ偽テ同人ノ出

司法省

廳スルヲ届ケ其期己ニ迫ルニ及ヒ猶疾病
ト詐稱シテ難ヲ避クルニ依リ

詐偽律 詐稱病死傷條

官吏人等疾病ト詐稱シ事ニ臨ミ難ヲ避クル
者ニ權衡ヲ取り懲役三十日等外吏ニ準シ私
罪贖例圖ニ照シ

贖罪金四円五十錢

副戸長 原田清吉

他ノ獄舎ニ移サントシテ既ニ檻ヲ出シテ
主守ノ自宅内ニ在ルノ際自ラ請フテ夜行
シ及ヒ主守者ニ誘引セラレ妓樓ニ到リ飲
酒淫遊ス由テ

雜犯律不應為條

不應為ノ輕キニ科シ懲役三十日ノ處一罪先
キニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發シ輕キ
ハ勿論ノ例ニ依

無罪

松澤忠藏

司法省

外五人

原犯ノ役限内ニ在ル者ハ仍ホ其限ヲ
盡サシムト雖モ推問中曠役ノ日數ハ
限内ニ算入ス

斷獄律

與陵虐罪囚
出入人罪
斷罪不當

司法省

陵虐罪囚

司法省

明治六年九月十日 静岡縣

断獄律陵虐罪囚條

獄卒非理ニ在獄ノ罪囚ヲ陵虐毆傷シ因テ死
ニ致スト云ヲ以テ論シ其無罪人ヲ拷打スル
ニアラサルヲ以テ死一等ヲ減シ且ツ里正ノ
指示ニ應シ罪犯ヲ糾問シ或ハ撞ヲ用ユル等
旧來ノ法ニ依テ偶々死ニ致スノ情實最モ憫
諒ス可キヲ以テ又一等ヲ減

人命
量減

懲役三年

元蕃人

望月 龜次郎

所犯改正前ニアルヲ以テ仍ホ三流一

陵虐罪囚

司法省

減ノ法ニ依ル

該犯曾テ教傷スルノ意アルニ非スト
雖モ方サニ其人ヲ拷打シテ因テ死ニ
致ス事理鬪毆殺ニ同シ必シモ過失ヲ
以テ論ス可キ情狀ニ非ス

拷打致死
造

明治六年九月十日 静岡縣

兄里正ノ指示ヲ受ケ窃盜ヲ拷打シ因テ死
ニ致スノ時助カスル者

闘毆律闘毆及故殺條

闘毆シテ人ヲ殺スノ餘人ヲ以テ論シ

懲役九十日

滝本勘十郎

司法省

諸認キ改
以テ
論セス

明治六年九月廿九日 警視廳

註違犯罪ノ者ヲ誤認シ強テ兼服セサルニ依
リ度々打擲スト雖モ事全ク過誤ニ出テ陵虐
罪囚律ヲ以テ論ス可キ狀情ニアラサルヲ以
テ止夕猥リニ人ヲ毆打セシヲ責ノ違式ノ重
キニ科シ等外吏ニ準シ例ニ依

贖罪金一圓五十錢

暹平

福永正一

人ヲ罪ニ失入スルノ罪ハ輕シ論セス

人ノ誤ヲ兼ケ無罪人ヲ罰スト雖モ因テ自己

司法省

失錯ナキ者罪ノ責ム可キナシ

暹平

松木政信

無罪

明治六年九月十日 静岡縣

罪犯ヲ糾尋スルハ旧來ノ法ニ據リ其拷打ス
ルヲ曾テ指示スルニアラス及ヒ自ラ手ヲ
下タサ、ルヲ以テ罪ノ責ハ可キナシ

無罪

望月庄藏

司法省

明治六年十月十五日。島根縣

該犯私ノ忌憎心ヨリ名ヲ懲戒ニ托シ同徒
ノ罪人ヲ毆打シ其苛虐ニ堪ヘス自死セン
トシテ傷ヲ成サシムル者

断獄律

獄卒非理ニ在獄ノ罪囚ヲ陵虐毆傷スト云ヲ
以テ論シ鬪毆律槌棒等ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ
成スト云ニ依リ原役ニ加役シ

懲役四十日

浪花幸之助

司法省

明治六年十月廿三日 兵庫裁判所

淺井又三郎供自分儀明治三年七月以来兵庫相生町尾形清三郎方ニ被召仕當主幼少ニ付家事一切取扱致シ居候處本年八月中旬止宿人備中國笠岡利助所持ノ腹掛一金八錢八厘同月三十日自分所持ノ蚊帳一張紛失致シ何レノ仕業トモ不相分候中兼テ止宿致シ居候越前國丸岡田町柳田稻太郎儀餘計ノ金子所持致シ居候旨承リ同人仕業ニテ可有之ト存シ本月二日朝同町本田新之助方エ罷越居候ヲ呼出シ連歸候途中

司法省

ニ於テ右蚊帳竊ニ取出候段自白致シ詫言申出候得共連歸不埒ノ儀ト立腹ノ餘リ手ヲ以テ打擲致シ繩ヲ以テ両手ヲ縛リ繫キ置猶又右腹掛賣拂候書付所持致シ居候ニ付是又同人仕業ト存込ニ相尋候處相違無之段申出弥立腹ノ餘リ小キ棒ヲ將テ打擲致シ一間ニ立込ニ外ヨリ鍵ヲ掛ケ置キ夜ニ入繩解放シ衣類所持ノ物ホ一物取上ケ番人附ケ置キ右品賣拂向エ掛合其品差返シ吳候得ハ内濟ニ可致ト存シ其旨不届出翌朝追其俵差置キ候

盜犯ヲ拷打ス
虐囚ヲ以テ論ス

事主盜犯ヲ拿獲シテ犯者供認諱マサルニ
仍ホ私家ニ於テ之ヲ一室ニ鎖シ兩手ヲ繩
縛シ手或ハ棒ヲ以テ毆打スル者斷獄律陵
虐罪囚ノ条ヲ以テ論シ凡厨毆ニ依ル

鬪毆律

槌棒等ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成サ、ル者

懲役三十日

浅井又三郎

司法省

與囚金及

司法省

五江拾遺

明治六年七月廿九日警視廳

捕縛ノ囚人ヲ檢査スルニ所持ノ短刀アル
ヲ知ラス裁判所へ遞送スル者

雜犯律條例

違式ノ重キニ擬シ懲役二十日庶人例ニ依リ

贖罪金一円五十錢

警視出張所等外

石渡長七

與囚金刃

司法省

明治六年十月廿一日 足柄裁判所

懲役已ニ放免スルノ後テ役中同囚懇切ノ
恩ヲ謝セシガ為メ金ヲ役場ニ入レ與フル
者

断獄律條例

獄卒金錢ヲ傳遞シテ囚ニ與フル者ハ違令重
ニ問フト云テ以テ論シ常人ニ付一等ヲ減シ
懲役三十日情ヲ量リ賤ヲ聽ス

贖金二圓二十五錢

佐藤熊次郎

司法省

主守検査不注意ヨリ懲役人役場ニ在テ毎日
給スル工錢十分一ノ外ニ餘ノ金錢ヲ貯蓄シ
或ハ外人ノ役場ニ金錢ヲ入レ與フルヲ覓ラ
ザル者違式ノ輕キニ擬シ懲役十日庶人賤例
ニ依ル

贖金七十五錢宛

長 知一

平田昭利

明治七年二月廿八日。足柄裁判所

役場ニ於テ外ヨリ常人ノ金銭ヲ入レ與ルヲ
受ル者

捧鎖一日

星野寅吉

受ル所ノ賍ハ追シテ官ニ入ル此他福
田辰之助ヨリ謝金等ヲ受ルハ其罪ヲ
問ハサルモ受ル所ノ金ハ辰之助ヨリ
贈ルノ分ヲ除クノ外餘ハ應禁ノ物ニ
係ルヲ以テ亦追シテ官ニ入ル

司法省

親戚ノ者ヨリ金銭ヲ貰ヒ受ケ役場ニ於テ所
持スル者獄則ヲ犯スヲ以テ論シ

捧鎖一日

江藤逸藏

受ル所ノ金ハ追シテ官ニ入ル

外役中金銭ヲ貰受ケ懲役場へ持歸ル者獄則
ヲ犯スヲ以テ論シ

捧鎖一日

阿達傳八

阿達友次郎

長谷川秀吉

川口仁三郎

鈴木金兵衛

受ル所ノ金ハ追シテ官ニ入ル

裁判所へノ指令

星野寅吉外六人ノ擬律失錯ニ付当該官吏
進退伺出候條貼断ノ上更ニ相違候事

司法省

志願軍ヲ
同ス

明治六年十月廿一日 足柄裁判所

談犯役場ニ於テ見舞金謝金等ヲ受ル毫モ未
索ノ念アルヲ見ズ皆彼ノ惠贈或ハ謝恩ノ既
送ニ係ル罪ノ責ム可キナシ

無罪

星野寅吉

懲役満期ニ臨ミ役場ニ於テ金ヲ同囚ニ贈リ
聊カ役中懇切ノ恩ヲ謝ス畢竟斯レ人情ヲ尽
スノ事罪ノ責ム可キナシ

無罪

江藤逸藏

司法省

- 阿達傳八
- 阿達友次郎
- 長谷川秀吉
- 川口仁三郎
- 鈴木金兵衛

懲役中金ヲ同囚ニ贈リテ其病ヲ訪フ畢竟以
下同上

無罪

福田辰之助

出入人罪

司法省

折半ノ案決
折半ニ決ス

明治六年七月廿四日 入間裁判所

懲役八十日ノ收贖ス可キ者無カニシテ贖フ
一能ハサレハ折半法ニ依リ禁獄四十日ニ處ス
可キヲ誤テ八十日ニ處シ後テ親屬ノ代テ贖
ハン一ヲ願フニ依テ殘ル四十日ヲ收贖セシ
ムト虽モ覺攀シテ賧金ヲ還却スレハ罪出入
ナキヲ以テ

免罪

權大解部

伊内利安

少解部

服部堅矣

出入人罪

司法省

本犯偽供係
出入ヲ以テ論セズ

給金ヲ遲延ス

明治六年九月廿四日 群馬裁判所

絞罪ヲ杖罪ニ決放スルハ素ト賊犯強盜ヲ竊
盜ト偽ルニ因ル賍金下ケ渡シ方違延スルハ
罪所由者アルヲ以テ

無罪

栗本奉義

事主ニ給ス可キ賍金ヲ失念シテ下ケ渡シ
方違延スル者

雜犯律條例

違式ノ輕キニ擬シ懲役十日贖ヲ聽ス

司法省

贖金七十五錢

真下 蔣平

明治六年九月十八日 坂縣

他人ノ嬰兒ヲ水ニ投シ殺死スルノ罪犯甘
結ノ口供ニ依テ斬罪ニ擬シ已ニ官裁ヲ經
ルノ際前キノ糾彈未タ盡サ、ル処アルヲ
疑ヒ覆審スルニ及ヒ已ニ病死スルノ屍ヲ
水ニ投スト翻異スルヲ信シ更ニ開具シテ
貼断セント申請スト雖モ事情尚ホ明了
ナラサル処アルヲ以テ他ノ裁判官ヲシテ
更ニ審セシムルニ覆審却テ偽供ニシテ最
初ノ擬律至當ナル者

司法省

断獄律出入人罪條

罪ヲ断シテ出タスニ失スル者ハ五等ヲ減ス
未タ處決セサルヲ以テ又一等ヲ減シ通シテ
死罪ヨリ六等ヲ減シ三流一減
法ニ依ル懲役一年本罪
懲役百日ヲ除キ剩ル懲役二十日ニ坐シ所由
ヲ以テ首トナシ公罪遮減法ニ照シ例ニ依ル

贖罪金二圓

權大屬
一賀道文

判官次官ヲ踰ヘ長官ヲ弟四從トナシ懲役一
年ヨリ三等ヲ減シ本罪懲役百日ヲ除キ剩罪

裁新案
断ヲ請フテ
申テ大仍ホ失
依ル

ナシ

無科

一

令
税所
篤

司法省

盜賊放過

而等錯誤

連累免罪

明治六年八月十三日 埼玉裁判所

追還ス可キ盜賊ヲ其儘放過シ及ヒ確知セサル事主ノ名ヲ罪案ニ記載スルヲ以テ違式輕ニ問フ可キ處該犯身死スルヲ以テ其罪ヲ免ス

故 星野 章 吉

擬律案ニ同署スト雖モ罪出入ナク且章吉盜賊等ヲ法ノ如クセサルヲ知ラサルニ依リ罪ノ論ス可キナシ

司法省

無罪

太田 庫 造

斷罪不當

司法省

貼断及テ
出入ナシ

明治六年八月五日 京都裁判所

贖罪スヘキヲ誤テ閉門八十日ニ處決シ既ニ
日數七日ヲ経テ自ラ覺悟シ貼断スルニ又誤
テ八十日ヲ全贖セシム其賤罪スヘキヲ實断
セシハ罪ニ出入無キヲ以テ論セス全贖セシ
ハ方サニ日數七日ヲ失入スト雖モ例三等ヲ
減ス可クシテ其一等ニ滿タサルヲ以テ罪ノ
科スヘキナシ

無罪

権中解部

室谷高富

贖罪金二圓ヲ還却スヘシ

断罪不當

司法省

明治六年八月廿四日 茨城裁判所

断獄律断罪不當條

收贖ス可キヲ決配シ失誤スル者ハ失出入人
罪律ニ一等ヲ減ス又同律罪ヲ断シテ入ル
ニ失スル者ハ三等ヲ減ス因テ本罪懲役八十
日四等ヲ通減シ懲役四十日法ニ依リ贖罪セ
シム

贖罪金四圓 推中解部 日 置 貫

同上

收贖ス可キヲ決配シ失誤スル者ハ失出入人

司法省

罪律ニ一等ヲ減ス又同律罪ヲ断シテ入ル
ニ失スル者ハ三等ヲ減ス因テ懲役八十日収
贖ス可キ者ヲ實断スト雖モ六十七日ニシテ
寛奉スルヲ以テ七日ヲ除棄シ本罪懲役六十
日四等ヲ通減シ懲役二十日法ニ依リ贖罪セ
シム

贖罪金二圓 十一等出仕 東 郷 實 政

同上

收贖ス可キヲ決配シ失誤スル者ハ失出入人
罪律ニ一等ヲ減ス又同律罪ヲ断シテ入ル

収贖ノ實断
未段ノ旨教ヲ
除棄ス

ニ失スル者ハ三等ヲ減ス因テ本罪懲役八十
日四等ヲ通減シ懲役四十日ノ慶弔ニ從タル
ヲ以テ仍ホ一等ヲ減シ懲役三十日法ニ依リ
贖罪セシム

贖罪金四圓五十錢

大屋祐義

許可ヲ經スシテ揭示場ヲ新築スルハ
職制律上司ニ申ス可クシテ申セサル
者ニ擬シ懲役三十日罪等キヲ以テ一
ニ從テ科ス

司法省

刑屍ノ蘇生
檢使ヲ責ム

明治六年九月十三日 石鐵縣

處刑濟其屍骸ヲ親屬ニ下付シ四里半ノ道程
ヲ昇歸シ到着後初ラ温氣アルヲ覺ヘ尋テ蘇
生ス檢使ニ於テ罪ノ科ス可キナシ

小 寄 一 藏

橋 村 正 名

無 罪

野 田 直 幹

武 司 重 緯

秋 洲 矯

司法省

明治三十八年三月十三日裝綴
總計 件 紙數 百四十八枚

調

主任屬	米田	富次郎
補助員	柏原	安之助
同	淺井	圖南彌



